

### III 社会貢献・地域連携

#### 広島文化学園大学文部科学省選定研究ブランディング事業 看護・医療福祉研究部門活動報告

看護・医療福祉研究部門「来んさいカフェ：呉」運営委員

土肥敏博 讃井真理 森田克也 前信由美 田村和恵 石川孝則  
岩本由美 新川雅子 平岡正史 平光 修 加藤重子 山内京子  
大塚 文 金澤 寛 進藤美樹 林 君江 浅香真由巳 今坂鈴江  
高橋登志枝 風間栄子 岡田京子 空本恵美 池田龍也

広島文化学園大学では、文部科学省平成 28 年度（2016 年度）「私立大学研究ブランディング事業」タイプ A に「地域共生のための対人援助システムの構築」が採択された（2016 年 11 月 24 日）。本事業の概要は、“支援を必要とする子ども、障害児・者、高齢・認知症者が健康に暮らす共生社会の実現のために、HBG 対人援助研究センターを核として、集いの場となる「来んさいカフェ」を提供する。看護・医療福祉研究部門（高齢者カフェ、認知症カフェ）、スポーツ・健康福祉部門、子ども子育て・教育福祉部門の 3 研究部門から、「カフェ」における対人援助プログラムと持続可能な地域支援サポーター養成プログラムの開発と検証を行い、本事業が地域の活性化に結びつくことを実証する。”としている（広島文化学園大学ホームページ：<http://www.hbg.ac.jp/info/branding.html>）。

本事業は当初 5 カ年計画であったが、4 年間に短縮され、令和元年度で最終年度となった。そこでこの 4 年間を振り返ってみる。

初年度（2016 年度）は、呉市に開設している認知症カフェ、および広島市や他府県で開設されている特徴的なカフェの実態調査を行い、情報を収集した（河野保子他 看護統合研究 19（2），p 1-13、p 14-32.）。この調査結果をもとに、看護高齢者カフェ、認知症カフェの方向性を明らかにし、2017 年度の試行を経て、2018 年度から本格実施となった。

#### I 「来んさいカフェ：呉」看護・高齢者カフェの活動

##### 1. 研究題目

高齢者健康支援のための HGB 看護カフェプログラムの開発と、高齢者カフェサポーター養成プログラムの検証

##### 2. 研究担当者

責任者：土肥敏博、副責任者：讃井真理

推進員：森田克也、前信由美、田村和恵、石川孝則、岩本由美、新川雅子、平岡正史、平光 修

##### 3. 社会的背景

高齢化の進展は、要支援や要介護状態となる高齢者や認知症者の増加が予測され、国の対策として様々な取組が行われている。

呉市の高齢化率は34.6%と全国平均(28.1%)と比べても高齢者の多い地域である。現在、「高齢者カフェ・サロン」などの事業が数多く展開されているが、多くの場合、実施主体者の経験知中心で実施され、体系的なカフェの有効性(エビデンス)を確認できていない現状がある。そのため、より効果的な高齢者カフェの在り方を検討する必要がある。また、対人援助研究を通して、看護学生の世代継承性の発達の検証と、地域在住高齢者の地域交流の促進と多世代交流を目指した地域サポーター養成プログラムの構築を目的とする。

#### 4. 高齢者カフェの考え方

看護大学の知的・人的(医療スタッフ・看護学生)財産・設備などを活かした「看護大学発」「地域住民発」のカフェを展開する。とりわけ、各種の健康測定機器を活用し、住民自身が健康に関心を持ち、健康の自己管理をしていける機会を創ることを支援する。また住民が主体的にカフェに参画し、地域全体の健康づくりと、身近な場所への社会参加で閉じこもり予防に繋がる地縁づくりに貢献する。さらに地域に住む高齢者は、その地域の健康づくりには必要不可欠な有益なパワーである。また、看護学生には対人援助力を高め、将来のキャリアアップに繋がる能力開発の機会ともなる。多くの世代が係り合う場の提供は、それぞれの心理社会的発達を促進することに繋がる。

#### 5. 高齢者カフェの実施状況

##### 1) 高齢者カフェチームの活動

2017年度から実施してきたカフェで、参加者は延べ650名を超えた。関心と興味を引く健康講座を継続的に実施し、リピーターの参加者も多く、縦断的な分析を一部開始したところである。また本年度は、教員以外のサポーター参加型のカフェも実施できた。以下は2019年度の例を中心に、2017年度、2018年度の特例を記す。例えば「きよみん夏まつり」は2017年の例で、2018年と2019年は西日本豪雨災害の影響のため中止となった。

##### 2) 実施内容

###### (1) 地域密着型出張カフェ

- 場 所：ほのぼのサロン(鹿田集会所2階)

日 時：2019年9月18日(水) 13時から 16時30分 参加者：38名

内 容：血管硬化度・ストレス測定、口臭検査、骨密度、物忘れ診断、タッチエム、Inbody、説明と相談、健康相談 土肥敏博教授の健康講座

教 員：讃井真理、森田克也、前信由美、田村和子、新川雅子、平岡正史、平光 修、土肥敏博(計8名)

- 場 所：東小坪自治会館

日 時：2019年11月9日(土) 10時30分～16時00分 参加者：43名

内 容：骨密度、Inbody、血管硬化度・ストレス測定、物忘れ診断、タッチエム、口臭検査、結果と相談、土肥敏博教授の健康講座

サポーター：学生サポーター：胡内、内田、平田(計3名)、 認知症看護エキスパート養成講座受講生：北木弥生、後根一明、古山陽子(計3名)、教員：讃井真理、森田克也、土肥敏博(計3名)

###### (2) イベント参加型高齢者カフェ

- 場 所：：呉市昭和地区市民センター 「きよみん夏まつり」の第2部健康福祉部に参加  
日 時：2017年7月30日（土）13：00～15：30  
内 容：血圧・握力・調査票記入支援、血液自己採血（A1c）、骨密度、物忘れ診断、筋肉量  
水分量測定、唾液採取、超音波；筋肉厚測定、ロコモチェック（2ステップ長）、身体  
バランス（トゥルーフィート）、心理的健康パターン調査、調査結果の相談

参加者：のべ89名

サポーター：学生ボランティア：看護学科学生自治会役員35名、教員：讃井真理、土肥敏博、  
森田克也、前信由美、田村和恵、岩本由美、新川雅子、平岡正史、石川孝則、山田晃  
子、上林聡子、外部臨床検査技師サポーター1名（計12名）

### (3) 個別カフェの開催

- 場 所：阿賀キャンパス内、集会所  
日 時：2019年5月～2020年2月で2回  
内 容：活動量計による活動量と活動強度による健康支援、体内筋肉量及び水分量等個別に  
対応

参加者：現在までに活動量計を中心として87名参加、個別に結果を返却

教 員：讃井真理、森田克也（計2名）

### (4) 出張カフェ

- 日 時：2019年3月（コロナ感染症のため中止）。  
内 容：血液自己採血（A1c）、毛細血管健康度、調査結果の相談、  
教 員：讃井真理、森田克也

### (5) 学内阿賀キャンパスグループカフェ

日 時：2018年3月24日（土）13：30～16：30

場 所：阿賀キャンパス オープンコモンズスペース（図書館）

内 容：①健康講座：講師；土肥敏博 教授 テーマ；「運動と認知症予防」  
②血圧・握力、血液自己採血（A1c）、物忘れ診断、タッチエム（脳の元気度測定）、  
体内筋肉量水分量測定、唾液採取、活動量計貸与、ロコモチェック（2ステップ長、  
timed up & go）、血管健康度とストレス度、心理的健康パターン調査等、調査結果  
の相談

参加者：19名

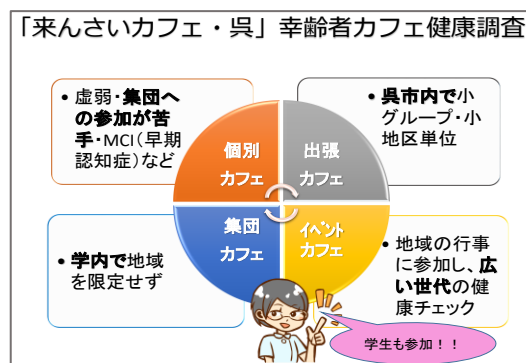
教 員：讃井真理、土肥敏博、森田克也、田村和恵、岩本由美、新川雅子、平岡正史、（計  
7名、高齢者カフェ学生サポーター：6名、看護師サポーター：1名（平光 修）

#### (6) 高齢者カフェのデモンストレーション

日 時：2018年3月1日（火）10時～12時

場 所：呉市役所 7階ホール

内 容：民生委員の各会長へ高齢者カフェを周知していただき、高齢者カフェを地域で活用していただくことを目的に、実際に高齢者カフェを開催し、質問への対応と、地域の情報を得てニーズを把握する。



参加者：30名

教 員：讃井真理、土肥敏博、森田克也、迫田千加子（計4名）、学生ボランティア：1年生11名、保健師コース3年生9名（計20名）、地域の医療保健福祉関連の看護師サポーター：5名

得られた知見から見えてきたものは、地域の中で疾患を抱えながら病状を管理できている集団であったことが考えられ、病状をコントロールすることで疾病の無いものと同程度の身体的状況維持が十分可能であることが示唆される。データの詳細については、「文部科学省選定 私立大学研究ブランディング事業 第1巻（2017年）～第4巻（2020年）に詳述されているので本稿では割愛する。

#### 6. 高齢者カフェ支援サポーター養成プログラム

##### 1) サポーター養成プログラム作成に対する社会的ニーズと養成プログラムの必要性

健康寿命の延伸は、社会保障制度上の課題でもあり、現代社会に生きる個人の課題でもある。高齢者カフェは一人ひとりが健康を維持するための社会資源の一つとしての展開を目指している。その高齢者カフェのサポーター養成プログラムは、生活体験が少ないとされる現代の看護学生が看護的な対人援助技術を磨く場であり、また学生自身が自己の存在価値を認識できる場となることを目指している。そして各地区の地縁を活かした独自の健康なまちづくりにも寄与でき、健康意識を地区全体で高め合うことを目指している。さらにその地に住む専門的知識人やその他の住民の知識を地区の健康長寿のための活動に活かすことを目指している。

##### 2) サポーター養成プログラム名

①高齢者カフェ学生サポーター養成プログラムと②看護専門職サポーター養成プログラム（認知症看護エキスパート養成プログラム）を実施している。③地域住民サポーター養成プログラムは計画中である。

##### 3) 養成プログラム作成までのステップ

高齢者カフェにおけるサポーター養成プログラムは、各種の健康調査機器を使用した健康調査の実施、及びその結果を踏まえた健康相談実施者を段階的に養成することを目標とする。各種の健康調査による身体計測は、正確さが要求され、また高齢者の身体的特徴を考慮した測定時の注意事項を理解した実施が必要である。そのことによって、より正確で安全な高齢者カフェ（健康調査）の実施と、調査結果を踏まえた健康支援の実施が可能となる。

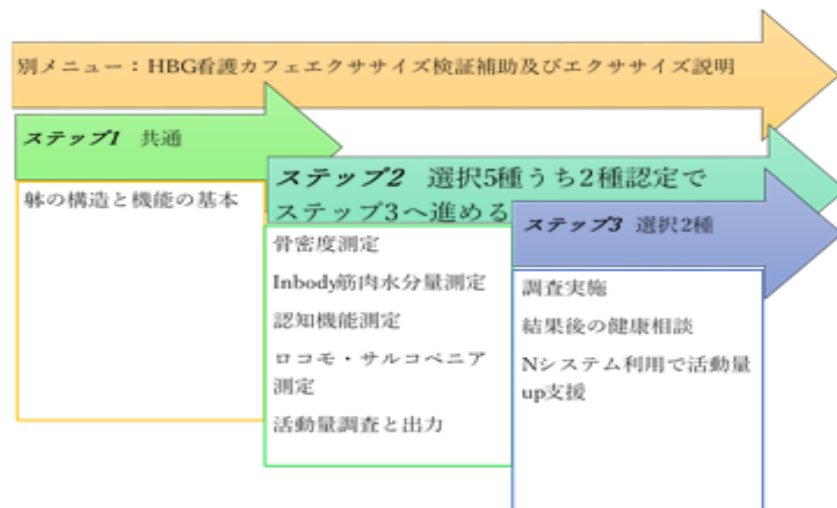


図 高齢者カフェサポーター養成プログラム進行表

## II 「来んさいカフェ：呉」看護・認知症カフェ（あがりんさい）の活動

### 1. 研究題目

認知症者支援のための HGB 看護カフェプログラムの開発と認知症サポーター養成プログラムの開発

### 2. 研究担当者

責任者：土肥敏博、副責任者：加藤重子

推進員：山内京子、大塚文、金澤寛、進藤美樹、林君江、浅香真由巳、今坂鈴江、高橋登志枝、風間栄子、岡田京子、空本恵美、池田龍也

### 3. 社会的背景

全国の 65 歳以上の高齢者において認知症有病者数は約 462 万人、MCI（軽度認知障害）の有病者数約 400 万人と推計されており、2025 年には認知症者数が 700 万人を超えるとの推計値が発表されている（厚生労働省新オレンジプラン 2015 年）。政府は、認知症対策を強化するため、2025 年までの施策を盛り込んだ新たな大綱を関係閣僚会議で決定した。発症や進行を遅らせる「予防」と認知症の人が暮らしやすい社会を目指す「共生」を 2 本柱として目標に掲げた（2019 年 6 月）。このような背景のもとに認知症予防に向けた様々な取り組みが市民の間でも活発におこなわれるようになってきている。しかし引きこもり者のカフェ参加を促す方策、行政の立場での支援、カフェ運営者の人材不足、サポーターの不足など認知症カフェの課題も多い。また、体系的なプログラムが少ないこと、カフェの有効性に関するエビデンスが見当たらないこと等が現状で、対人援助研究を通し一般化できる看護カフェモデルの開発が急がれている。また、認知症者との共生社会実現にはサポーターの養成が急務である。

看護・医療福祉研究部門では地域の人を対象とした健康調査やテーマイベントを開催、足浴、手浴など多彩なプログラムでから成る HGB 看護カフェ“あがりんさい”（以後“あがりんさい”と略す）を実施し、また呉市内の認知症カフェに学生を派遣する“学生派遣型カフェ”を実施した。これらの関わり及び成果を検証して認知症カフェプログラムの開発と認知症サポーター養

成プログラムの開発を行った。

#### 4. ニーズに合わせた認知症カフェの方向性と実施形態

##### (1) 認知症カフェの方向性

①地域性を重視、看護師および看護学生参画のカフェ“あがりんさい”を開設。認知症予防、認知症の人および家族支援 ②学生の参画は授業の一環として組み入れ、学生教育、次世代サポーター養成、世代継承性推進 ③認知症カフェ・地域包括支援センターとの連携、ネットワーク体制の構築 ④各種活動を通じて社会が認知症に関して正しく理解し、認知症者が住み慣れた地域で楽しく暮らせる社会の構築への寄与 ⑤本事業により得られるエビデンスに基づいて看護・認知症カフェモデルの構築

##### (2) 認知症カフェの実施形態

これまでの“あがりんさい”実施回数は、2017 年度 7 回、2018 年度 9 回、2019 年度 13 回（合計 29 回）、延参加者数（含学生）約 1,400 名。

①大学を拠点とした“あがりんさい”の実施

②地域出張型“あがりんさい”の実施

③地域の老人クラブなどへの学生派遣型“あがりんさい”の実施 2 回（2018 年は西日本豪雨災害のため中止）

④地域の認知症カフェへの学生派遣（表）

#### 5. 認知症カフェ“あがりんさい”プログラムの内容

##### 1) イベント・調査・交流形式

①場所：広島文化学園大学看護学部、地域集会所、地域認知症カフェ派遣

②形態：テーブル毎に参加者 5～6 名に学生 2～3 名を配する。学生は交流、各種イベント実施・調査・アンケート記載サポート、飲み物配膳など。

③セッション所要時間：約 120 分

##### 2) 調理実習形式

①場所：看護学部調理実習室 ②形態：4 調理台に分散 ③セッション所要時間：3～4 時間

#### 6. 認知症カフェプログラムの実際

##### ①認知症予防・介護予防イベント：

・季節行事（七夕祭り、防災、クリスマス、お正月、節分会、ひな祭り他）、おしゃべりしましょう、高齢者の生きた時代、阿賀町探訪、学生と一緒に学ぼう、回想コミュニケーション、学生の発表と評価・座談会、非薬物療法（音楽、フラダンス、日本舞踏、回想、ハンドマッサージ、足沐浴等）

・イベントボランティア：演奏と歌のハワイコールズ、日本舞踊の寿報会、フラダンスのモハラプアナニの 3 団体、西延埼プラチナクラブ（ハンドベル演奏）、高大連携高等学校ボランティアは、清水ヶ丘高等学校教員 1 名、生徒 6 名、一般ボランティア（写真家、看護師）2 名が運営に協力。

②健康調査：改訂 PGC モラール・精神的健康パターン・心理：生きがい感調査、認知機能検査（もの忘れ診断、イシス、タッチエム）、イン・ボディによる各種生体機能調査（筋肉量・水分量・内臓脂肪量）、骨密度検査、反復唾液嚥下テスト、自律神経均衡度&ストレス検査等

③機能訓練：筋力アップ体操、転倒防止体操（スクワット・かかと落とし）、嚥下体操（ぱたから体操・口腔機能訓練）は、学生・看護師指導のもとにあがりんさい毎に行い、実施記録カレンダーを配布し、自宅での実施記録をつけることにより家庭で行うことを奨励

④調理実習・高齢者ソフト食の試作・試食

⑤運営者：看護学生、教員・看護師、保健師、精神保健福祉士、認知症ケア専門士、ボランティア（日本舞踊、老人クラブ、看護師、写真家、バンド、フラダンス、あがりんさいサポーター、ボランティアサークル）

#### 4) 認知症サポーター養成プログラム

①認知症サポーター養成講座：開講式、認知症サポーター研修、疾患の理解、認知症予防、お口のケア(歯科医)、介護技術実習、座談会、ふりかえり、修了証書授与式(4回シリーズ、20名参加)

②認知症サポーターフォローアップ研修 2/6 14名参加

#### 5) ソフト食公開講座プログラム：子どもから高齢者まで美味しく食べられるソフト食の講義と調理実習（別掲）。

#### 6) “あがりんさい”ネットワーク会議：趣旨「高齢化が進む中で、呉市の住民が医療や介護が必要な状態、認知症になっても、住み慣れた家や地域で安心して暮らせるように認知症カフェを通じて地域の資源を最大限に活用して支援する『あがりんさい認知症カフェ』ネットワーク体制を整備する。」広島文化学園大学としてわが町にどのように貢献できるか、地域の持つニーズにどう“あがりんさい”の資源(教育・研究・施設・設備・人材)や強み(対人援助の専門職集団、学生のパワー)を活かした支援ができるか検討した。2019年度会議は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となった。

#### ●災害とカフェ

2018年西日本豪雨災害のため、8月に予定されていた「高齢者カフェ」、および「認知症カフェ」は中止となった。この間、呉市在住の参加者の安否確認の電話や水・食料品の供給などカフェの活動は地域住民の大変な支えとなった（私立大学研究ブランディング事業第3巻, P57-58, 2019; 看護総合研究センター年報第3巻 P41-43, 2018 参照）。

2020年は、新型コロナ感染症の流行で、3月に予定していた高齢者カフェ「出張カフェ」および認知症カフェ“あがりんさい”およびあがりんさいネットワーク会議は中止となった。この感染症のため、日本国内の大きなイベントが次々と開催中止を余儀なくされている現状から、2020年度の従来型のカフェ開催も危ぶまれる。こうした状況下に新しいカフェの在り方が求められる。

2019 年度 あがりんさい活動一覧表

認知症カフェ「あがりんさい」

月/日	場所	テーマ・イベント	参加者
5/19(日)	西新開集会所	講話 ハワイコールズ、バンド、 フラダンス おしゃべりしましょう 総数 45 名	高齢者 21 名、子ども 1 名、 ボランティア 6 名 学生教員 18 名 呉市介護保険課 1 名
6/22(土)	阿賀キャンパス 205 教室	高齢者の生きた時代 調べ発表 高齢者による昔の遊びコ マ、けん玉 総数 45 名	呉市老人クラブ 21 名 学生教員 24 名
6/22(土)	阿賀キャンパス 2 階実習室	高齢者の生きた時代 阿賀のまち探訪地図 総数 26 名	高齢者 21 名 ボランティア 1 名 学生教員 4 名
7/21 (日)	阿賀キャンパス 調理実習室	おしゃべりしましょう 総数 31 名	高齢者 13 名 ボランティア 1 名 学生教員 17 名
8/18 (日) オープンキ ャンパス同時開催		学生と一緒に学ぼうソフ ト食 調理実習 総数 53 名	高齢者 24 名 ボランティア 高校生 3 名保護者 1 名、 教師 1 名 強化コース 7 名 看護師コース 10 名 教員 7 名
9/8(日) オープンキャ ンパス同時開催		回想コミュニケーション 「私のとっておきの一枚」 総数 38 名	高齢者 23 名 ボランティア 1 名 高校生 3 名 学生教員 11 名
10/19 (土)		秋祭り ハワイコールズ、 バンド、 おしゃべり 総数 47 名	高齢者 22 名 学生教員 23 名 ボランティア 2 名
11/16(土)大学祭同時		健康調査、大学祭	高齢者 40 名

開催	2 階実習室	認知機能、Inbdy 骨密度、握力、下肢筋力、 嚥下力 総数 63 名	学生教員 23 名
12/13(金)	阿賀キャンパス 2 階実習室	クリスマス ハワイコールズ 作業療法ツリー制作 サポーターによる企画 ハンドベル 総数 57 名	高齢者 30 名 ボランティア 2 名 学生教員 23 名 ボランティア 2 名
1/17(金)		鏡開き 寿報会 日本舞踊 おしゃべり 69 名	高齢者 34 名 ボランティア 13 名 学生教員 22 名
2/7(金)		節分祭、講話 フラダンス、長生きサン バ、豆まき、的あて サポーターによる企画 鬼 総数 70 名	高齢者 30 名 介護事業所職員 4 名 ボランティア 8 名 学生教員 28 名
3/13(金)予定 中止		ひな祭り サポーターによる企画 おひなさま	高齢者 学生教員
2 月末から 3/4 電話		健康チェック 電話で様子伺い	
3/4 家庭訪問		ひな祭り 歌、お茶 パタカラ体操 懇談,回想 総計 4 名	高齢者 2 名 教員 2 名

#### 会議

月/日	場所	主催	参加者
1/24	広まちづくりセンタ ー	呉市介護保険課	認知症カフェ管理者
3/24 中止 4 月に開催予定	阿賀キャンパス 205 教室	認知症カフェ「あがりんさ い」	阿賀市民センター 呉市介護保険課

		ネットワーク構築 2020 年議場計画	呉市社会福祉協議会 呉市老人クラブ 認知症家族の会 呉市委託認知症カフェ 認知症サポーター・介護 予防教室修了者 認知症疾患治療センター 管理栄養士・講師
--	--	------------------------	--

#### 2019 年度 認知症サポーター養成

月/日	場所	講師	対象者	内容
9 月 24 日	201 講義室	加藤重子	学生 108 名	認知症サポーター
9 月 24 日	302 講義室	加藤重子	学生 10 名	認知症サポーター
11 月 7 日	205 講義室	林君江	地域住民 14 名	認知症サポーター
11 月 25 日	呉高等専門学校	加藤重子	学生 18 名、(株) ラスター社員 12 名	認知症サポーター
11 月 14 日	大学	林君江	24 名	認知症サポーター
11 月 21 日	大学	土肥敏博 進藤美樹 岡田京子 風間栄子 認知症看護強化コ ース 3 年生 原田、古田	20 名	認知症と薬 服薬
11 月 28 日	大学	栗林歯科医師 加藤重子 老年看護研究セミ ナー 3 年生、 佐藤、古田	20 名	お口のケア 誤嚥防止 車いす操作

#### 認知症サポーターフォローアップ研修

月日	場所	講師	対象者	内容
2 月 6 日	大学 2 階実習室	土肥敏博、 加藤重子 進藤美樹	2018 年 2019 年 認知症サポーター 養成・介護予	認知症大綱 認知症の人と家族 の避難所での支援、

		風間栄子	防教室履修者 14 名	倫理的視点 認知症カフェ運営 等今後の活動についてグループディスカッション
--	--	------	-------------	---

#### 学生派遣

派遣日	認知症カフェ	学生
5/11	○△□えがお	認知症看護強化コース 3 年生
5/15	憩いのオレンジカフェ	老年看護援助論Ⅲ履修 3 年生
6/8	高揚フラワーカフェ	認知症看護強化コース 3 年生
6/15	きてくれサロン夢プラス	認知症看護強化コース 3 年生
6/20	認知症カフェハレルヤ	認知症看護強化コース 3 年生
6/22	はっぱカフェ	認知症看護強化コース 3 年生
6/22	○△□えがお	認知症看護強化コース 3 年生
7/6	高揚フラワーカフェ	老年看護援助論Ⅲ履修 3 年生
7/20	デイサービス結サロン	認知症看護強化コース 3 年生

#### フィールドワーク

派遣日	重度認知症デイケア	学生
6/13	ふたばの森	認知症看護演習履修 3 年生 12 名
7/25	ふたばの森	認知症看護演習履修 3 年生 12 名

#### 地域の要請による介護予防講演

月日	場所	講師	対象者	内容
7 月 6 日	西延崎自治会館	認知症看護強化 コース学生 13 名	プラチナクラブ 30 名	認知症の話 認知症予防カフェ
7 月 7 日	阿賀まちづくり センター	加藤重子	阿賀地区運動推 進協議会 220 名	心と体の健康づくり、 認知症予防
9 月 14 日	くれすこやかセ ンター	加藤重子	呉市社協ひよこ 塾 30 名	認知症予防
9 月 14 日	広まちづくりセ ンター	加藤重子	呉市社協ひよこ 塾 30 名	認知症予防

11月19日	阿賀、郷2区	加藤重子	郷2区長寿会 30名	心と体の健康
12月25日	阿賀、原3区	加藤重子	原3区親和会 20名	健康づくり教室

公開講座（2016～2019年度）

月/日	テーマ	講 師
2016/11/27 くれ絆ホール	「日常生活で継続できる健康づくり」ー ガンや認知症など生活習慣病全般を病気 別に予防するには？ー	東京都健康長寿医療センター研究所・ 研究副部長（運動科学研究室長） 青柳幸利氏
2017/11/26 くれ絆ホール	平穏死のすすめー穏やかに最期を迎える ために	東京都世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム医師 石飛幸三氏
2017/10/28 くれ絆ホール	認知症になっても地域で幸せに暮らすた めに	医療法人社団知仁会 メーブルヒル病 院 広島県西部認知症疾患医療・大竹 市認知症対応・玖波地区地域包括支援・ 合併型センター センター長 神経内 科医師 井門ゆかり氏
2018/2/5 看護学部	新たな薬剤耐性菌の時代	国立感染症研究所 薬剤耐性研究セン ター長 菅井基行氏
2018/6/23 くれ絆ホール	いびきと無呼吸のかかわり	筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 教授・医師 佐藤 誠氏
2018/11/29 看護学部	緑茶アミノ酸が認知症を予防する？	金沢大学名誉教授 米田幸雄氏
2019/10/27 くれ絆ホール	認知症を怖がらないで～認知症になっ ても住み慣れた街で幸せに暮らすために～	好縁会理事長、広島認知症予防研究会 会長 下山直登氏
2019/12/2 看護学部	脳とこころの科学:憂うつ感やワクワク 感を見える化してイノベーションに挑 戦する	広島大学特任教授、脳・こころ・感性科 学研究センター長 山脇成人氏